

薬師如来大陀羅尼

なうぼうばぎやばてい
南無簿伽伐帝

ばいせいじや
鞞殺社

ぐろばいるりや
婁嚕薛瑠璃

はらば
益刺婆

あらんじやや
喝囉闍也

た た ぎや た や
怛他揭多耶

あらかてい
阿囉訶諦

さんみやくさんぼだや
三藐三菩提耶

たにやた
恨姪他

おん ばいせいぜい
唵 鞞殺逝

ばいせいぜい
鞞殺逝

ばいせいじや
鞞殺社

さんぼりぎやてい
三曼揭帝

そわか
莎訶

(呪文の意味) 心から従い信頼しております薬師如来に、お願い申し上げます。ありがたい薬徳を授け与えたまえ。いかなる薬も効かず、医者にも見放された者でも、お薬師様のこの陀羅尼(呪文)をお唱え従いますので、一切の諸仏諸菩薩の悟りの力をもって、なにとぞ、すみやかに薬徳を、薬徳を授け与えたまえ。過去、現在、未来の諸仏諸菩薩に、成就お願いいたします。(このように呪文の意味を理解したうえで唱えると、より強い功德を授かることができます。)

薬師如来のご利益を授かる方法

薬師如来は、大医王如来とも呼ばれ、我が国ではすでに飛鳥時代から、身心の病をいやす仏様として盛んに信仰されてきました。「薬師如来本願経」によれば、その偉大なる霊徳は薬師如来がまだ菩薩の位にあった時に立てた「十二の大誓願」に象徴されています。すなわち、第六番目と、第七番目には「いかなる薬も効果なく、医者が見離す程の病氣を持った者でも、薬師如来の名を唱えれば、必ず病難を追い出してあげよう」との誓いを立てその通りに実行しました。薬師如来の偉大な霊徳を授かるために、古くから最も効果のある方法とされたのが「薬師如来大陀羅尼」を家の中に貼っておくことであり、呪文を朝に夕に唱えることなのです。